

令和 8 年度

入 試 問 題 集

国 語

学校法人藍野大学
明浄学院高等学校

以下の【一】～【四】の字数制限のある問題はすべて句読点や記号も字数に含めて答えること。

【一】 語句に関する次の問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤のことわざ・慣用句の空欄部□に入る体の一部を表す漢字を後のア～オの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 間□を容れず ② □に汗する ③ □をひそめる ④ 鬼の□にも涙 ⑤ □牙にもかけない

ア 額 イ 眉 ウ 目 エ 歯 オ 髪

問二 次の①～⑤の空欄部□の中に共通した漢字一字を入れるとそれぞれ熟語になります。その漢字を答えなさい。

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| ① □ 同・場 | ② □ 自 □ 来 □ 緒 | ③ □ 段・価 □ 数 □ |
| ④ □ 対・呼 □ 反 □ | ⑤ □ 場・首 □ □ 手 | |

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ここでカクニン^①しておきたいのは、自尊心とか自己肯定感というのは決して客観的なものではないということである。

周囲を見回せば、十分な^I実力があつたり実績があつたりするのに自信なさそうな人^{II}もいる^{III}。いつも欠かさずに宿題をやってくるし、授業中に先生から指名されればたいてい適切な回答をするし、試験でも良い点数を取っているから、もっと自信たっぷりな態度を示してもよさそうなものの、何だか自信なげに見える同級生がいたりする。異性からモテモテなので自信をもっているのかと思えば、気持ちが委縮^②していて、なんでもっと自信をもてないのだろうと不思議に思わざるを得ない同級生もいたりする。

(A) 宿題をいつもやってこないし、授業中に気が散^③りがちでしょっちゅう先生から叱^{しか}られていて、試験でもけつして良い点数を取っているわけではないのに、いつも堂々としていて自信ありげに見える同級生がいたりする。ランボウ^④者で周囲から煙たがられているのに、そんなことにはまったく無頓着^{むとんちやく}で、何だか自信満々な態度で人に話しかける同級生もいたりする。

自己に対する肯定的または否定的態度が自尊心あるいは自己肯定感^aだとすると、それは客観的に裏づけられたものではなく、きわめて主観的なものと言わざるを得ない。

実際、心理学^bの草創期に心理学を体系化したジェームズは、自己に対する満足や不満足^bの客観的理由とは無関係の、ある平均した調子の自己感情があるという。それがまさに自尊心あるいは自己肯定感のことだと言つてよいだろう。

(B) もっと自信をもつてもよさそうな実績や能力があつたり人気があつたりするのに自信がない人がいたり、反対になぜあんなに自信満々^cのかがわからない人がいたりする理由^cがわかる。どうも自尊心や自己肯定感^cというのは、客観的な基準に従つて上下する^cというものではないようだ。

自尊心の測定法を開発したことで知られるローゼンバークも、自尊心^cというのは(C) 的な評価には対応していないものとみなしているように思われる。ローゼンバークは、自分^cはたいいていの人より優れていると考えているのに、自分自身に対して設定した(D) をもとに自分は不十分だと感じる人もいれば、逆に、自分は平均的な人物だと考えているのに、そんな自分にとっても満足を感じている人もいると指摘している。

このように自尊心や自己肯定感^cは、周囲による客観的な評価に対応したものでもなければ、自己評価をそのまま反映したものでもなく、本人が自分自身に満足しているかどうかというきわめて主観的なものである。

(榎本博明『自己肯定感^cは高くないとダメなのか』による)

問一 二重傍線部①～④の漢字をひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 波線部Ⅰ～Ⅲの語の品詞名を次のア～エの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 名詞 イ 動詞 ウ 形容詞 エ 形容動詞

問三 空欄部（A）、（B）にあてはまる語句として最も適切なものを次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア そう考えると イ そうは言っても ウ その一方で エ その結果

問四 傍線部 a 「それ」について説明したものとして適切でないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 実力や実績がある人の自信のなさ

イ 優秀な人の自信たっぷりな態度

ウ 同級生の自信の有無に対する疑問

エ 叱られても堂々としているさま

問五 傍線部 b 「草創」の意味として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 物事を新しく始めること。

イ 物事が完全に終わること。

ウ 物事が順調に進まないこと。

エ 物事が進行中であること。

問六 傍線部 c 「理由がわかる」とありますが、その理由を解答欄の「から」に続くように本文中より四十字以内で抜き出し、最初と最後の五字を記しなさい。

問七 空欄部（C）、（D）にあてはまる適切な語を本文中よりそれぞれ二字で抜き出しなさい。

問八 本文の内容に合致するものとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 真面目に勉強し好成績でも自信がない人もいれば、周りからの評価が高くなっても自信に満ちた人もいる。

イ 宿題をやらなかったり授業に集中せず先生に叱られたりする生徒は、いつでも自信满满であることが多い。

ウ 自尊心や自己肯定感には、実績や人気など、誰から見ても同じように判断することができ基準がある。

エ ローゼンバーグは、他人と優劣を競うことによって、自分自身への満足度が高まっていくと指摘している。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

翌日、学校へ行ったHは飛び上がるほど驚いた。机に白墨^{*1}で、スパイと書いてあったのだ。

^a 父親が連行され調べられたことが、もう知られているらしい。Hは誰か頼りになる奴^{やつ}はいないかと思った。人のいい昭五は気が弱すぎるし、登志夫はかえって人にしゃべりそうだし、と^①思案^{*2}していると、廊下の窓^②越しに林クンが通るのが見えた。林クンとは組が違っていたので最近あまり遊ぶ機会がなかったが、彼なら相談しがいがあるし、横綱^{*2}だからスパイを見つけたときに投げ飛ばしてくれるはずだと思った。

放課後、体操道具置き場の隅で、Hは林クンに事件^bの顛末^{てんまつ}を話し協力を頼んだ。

「ええよ。これからのこともあるから、見つけたら投げ飛ばすだけやのうて殴^うったる」

と約束してくれた。Hは少し気持ちが楽になった。(A)、その後で林クンがとんでもないことを教えてくれた。

「かなり前から、お前^{*3}の家は"スパイの家族や"という噂^{うわさ}がたつとつたんやで。知らなかったんか？ Hはアメリカから来た写真の葉書を持ってるというんや。ほんまに持ってるのか？」

「だれから聞いたん？ それをしゃべった奴を探してるんや、そいつこそスパイや！」

「だれって、何人もいうてたから、だれが最初にしゃべったのかわからん」

^c Hはそのとき、ずいぶん前になるが、イッチャンに見せたことがあるのを思いだした。

「なんか思い当たる奴がおるんか？」

Hは、林クンにイッチャンの名前を教えなかった。イッチャンなら、ぼく一人でぶつとばせると思ったのと、あまりに身近な友だちだったのでショックを受けたからだ。

Hは、まさか^dイッチャンが机の上にスパイと書くわけがない。とすると、こんどもやつぱり十字架^{*4}を書いた勝造に違いないと睨^{にら}んだ。Hは、"スパイ"といわれるのがどんなに迷惑で嫌なことかを、相手にハッキリわからせなければならぬ^②と思った。それには、ショウゴ^②をつかまなければならぬ。犯人は、ひよつとすると一人ではないかもしれない。もし相手が多いときは、林クンの力をかりるだけではなく、両隣の美田クンと平井クンに助太刀^{すけだち}を頼もうと思った。

そんなことを考えながらHが学校から家に帰ると、父親が帰っていた。なんだかホッとして、へなへなと力が抜けて玄関^{かまど}の框^{すわ}に坐りこんでしまった。

「もう行かんでもええの？ 大丈夫なの？」と咳^{せき}こむようにHが聞くと、

「もうええやろうと思う。この絵葉書は返しとこう。でも、今はこんなのを人に見せんほうがええ。別にどうということのない昔の葉書やけど、気をつけなあかんよ」

「やつぱり、この絵葉書で引^ひつ張^はられたんやろ？」

「違う。絵葉書はついでや。絵葉書を出した人のことや、教会のことも聞かれたけど、戦争が始まる前のアメリカやイギリス人と、どんな付き合いをしとったかとかが主^{しゅ}やった。それからいま接触している外国人がいるかいな？ それから、ユダヤ系のドイツ人との接触も、今後は敵国性外国人に準^{したが}じるようになったから、敵

重に注意するようにいわれた」

Hは、父親の話を聞いているうちに、イッチャンが許せなくなった。どんなつもりで勝造にしゃべったのかだけでも聞き出さなければ、気持ち治まらないと思っ
た。

「しゃべった奴はイッチャンで、書いたのはバラケツの勝やと思う^{*5}」と父親に告げると、

「イッチャンにニューヨークの写真を見せたのは誰や？ 見せなんたら、他の人にしゃべる原因をつくらんでもよかったんやないか？ イッチャンをスパイやなんかい
うたらあかん。あの写真を見せたんはいつやった？」といわれたので、

「三年生になったばかりのときや。まだアメリカと戦争になってなかったから、アメリカはこんな建物が建ってるし、スゴイ国なんやというた」

「ほんならイッチャンも、あんたがいうたのと同じことを友だちにしゃべったんと違うか？ もしそうやったらイッチャンをやつつけるというのはオカシィンやない
か？ むしろイッチャンこそいまあんたの机にスパイなんか書かれてるんで、困ってるんと違うか？ あんたこそイッチャンを慰^③めたらなあかんよ」

Hは、それを聞きながら、こんどは前と違^{*6}って「エエカッコいうてる」と思わなかったし、「お父ちゃんにはかなわんな」^eと思った。

母親がいなかったからよかったものの、この話を聞いていたら、また、「愛やねえ」というだろうと思った。

Hは、翌日学校でイッチャンに、

「今夜、アナゴ釣りをしよう。メシを食ったら迎えに行くから」と誘った。

夏になると、男の子たちは夜の浜辺に出かけ、重りをつけた釣り糸をビュンビュン振り回して沖に投げた。そのテグス糸を砂浜に突き刺した細く削った竹にひっか
けてから、砂の上にアオム^④けに寝転んだ。打ち寄せる波の音を聞きながら、あとはアナゴが食いつくのを待つだけだ。アナゴがかかると、竹がしなつて鈴が鳴ること
になっていた。

晩御飯を食べてから、イッチャンの家に迎えにいった。イッチャンは留守だった。逃げたのかと思ったが、彼は浜辺の砂浜に坐ってHを待っていた。

一緒に釣り糸を思いきり沖に投げたあと、砂浜に寝転んで空を見上げた。

イッチャンはHが何をいいだすか、と少しびくついているのが横に寝ている体から伝わってきた。Hはできるだけ（B）切り出さなくてはと思うと、かえって
（C）になった。

「ぼくは怒ってないよ。見せたんはぼくや。アメリカのことお前に教えたんもぼくや。（D）になったんがあかんかったんやから、だれも責められへん。もうス
パイと書いた奴は捕まえることにする。イッチャンとはずっと友だちや」というと、急にイッチャンが泣きだした。そして、「机の字、これからもぼくが消したる」
といったので、Hも涙が出てしまった。

満天の星が涙で滲^{にじ}んで、線のように光が伸びてボアボアの星になった。

その夜、イッチャンはアナゴを二本あげたが、Hは一本も釣れなかった。

《注》

* 1 白墨 はくぼく …… 白いチョーク。

* 2 横綱 …… 林クンは小学校の相撲のチャンピオンで、「横綱」というあだ名で呼ばれていた。

* 3 お前の家 …… Hの父親は正統時代に神戸で修行をして洋服の仕立て職人になった人で、客の中には外国人もいた。また、Hの両親はクリスチャンで、Hも幼い頃から教会に通っていた。布教のために来日したアメリカ人宣教師とも家族ぐるみで交流があった。

* 4 十字架 …… 日本人なのにキリスト教を信じているということで、Hは学校で嫌がらせを受けることもあった。以前、机に白墨で十字架が書かれた跡（誰かが消そうとしてくれていた）を見つけたことをさす。

* 5 バラケツ …… 不良少年、不良グループのこと。

* 6 前と違って…… 前日の晩に父親から明日もう一度Hの絵葉書を持って出頭しなければならないと聞いた際に、Hは警察に密告したスパイを探すと言ったが、父親にスパイ探しをしたら自分もいやな人間になるからやめるように言われ、エエカッコいうてると腹を立てた。

問一 二重傍線部①④の漢字をひらがなに、カタカナは漢字に直さない。

問二 傍線部 a 「父親が連行され調べられた」とありますが、調べられた内容として適切でないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア Hが持っていたアメリカからの絵葉書の差出人のこと。

イ クリスチャンであるHの家族が通っている教会のこと。

ウ 戦争が始まる前に英米人とどんな付き合いをしていたか。

エ 敵国性外国人であるドイツ人と現在も接触しているかどうか。

問三 傍線部 b 「事件の顛末」とはどういうことですか。解答欄の「こと」につながるように本文中の語句を用いて三十字以内で説明しなさい。

問四 空欄部（A）に入る最も適切な接続詞を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ところで イ そして ウ しかし エ だから

問五 傍線部 c 「Hはそのとき、ずいぶん前になるが、イッチャンに見せたことがあるのを思いだした」とありますが、思いだしたことを説明した次の文の空欄に入る適切な語句を本文中より抜き出さない。ただし、I には十四字、II には二十四字の語句を抜き出すこと。

Hがイッチャンにアメリカから来た写真の葉書を見せたのはI だった。その頃はまだアメリカと戦争になってなかったので、ニューヨークのビル群がうつった写真を見せながら、II と自慢したことを思いだした。

問六 傍線部 d「まさか」はどこにかかりますか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア イッチャンが イ 机の上に ウ スパイと エ 書くわけがない

問七 傍線部 e「お父ちゃんにはかなわんな」と思った」理由として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分のせいでこんなことになったと困っているであろう、ITCHCHANの苦しい胸のうちに気づかされたから。

イ 机にスパイと書かれるそもその原因をつくったのは、ITCHCHANに写真を見せた自分自身だったと納得したから。

ウ イッチャンが写真のことをしゃべった裏切り者だったとしても、相手を許せという父の寛大さについていけないから。

エ 取り調べを受けて嫌な思いをしたはずなのに、自分のことよりも家族のことを心配する父は大人だと思ったから。

問八 空欄部（B）、（C）に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア B 〓おごそかに C 〓大きな声

イ B 〓急いで C 〓甲高い声

ウ B 〓静かに C 〓かすれ声

エ B 〓カッコよく C 〓ささやき声

問九 空欄部（D）にあてはまる適切な語を本文中より二字で抜き出さない。

問十 傍線部 f「もうスパイと書いた奴は捕まえんことにする」とありますが、ここまでのHの気持ちの移り変わりとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 怒り ↓ 安心 ↓ 後悔 ↓ 歓喜

イ 驚き ↓ 疑い ↓ 怒り ↓ 反省

ウ 驚き ↓ 緊張 ↓ 怒り ↓ 悲嘆

エ 怒り ↓ 焦り ↓ 安心 ↓ 後悔

問十一 本文の内容に合致するものとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア イッチャンは面と向かって逆らうことはできないが、Hのために危険をおかしても机の字を消そうとする優しい子である。

イ 林クンはHに協力すると約束したが、思い当たる奴がいるのかと聞いたときに口ごもったHに少し不信感を抱いている。

ウ Hは父親にはかなわないと思ったが、それでもITCHCHANから直接どんなつもりで勝造にしゃべったのか聞こうと考えた。

エ 夜の釣りに誘われたITCHCHANはHより先に浜辺の砂浜に行って待っていたので、アナゴを二本もあげることができた。

【四】 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。（原文の漢字・仮名づかいを一部改変しています。）

長月^aの有明の月にさそはれて、蔵人の少将、指貫^{*1}つきづきしくひきあげて、ただひとり小舎人^{*3}童ばかり具して、やがて朝霧も立ちかくしつべく、ひまなげなるに、
「をかしからむところの、あきたらむがな」^{*5}

と言ひて歩みゆくに、木立をかしき家に、琴の声ほのかに聞こゆるに、いみじう嬉しくなりて、めぐる門のわきなど、崩れやあると見けれど、いみじく築地^{*6}などまたきに、なかなかわびしく、いかなる人のかく弾きぬたるならむと、わりなくゆかしけれど、すべきかたもおぼえて、例の声出^{*9}ださせて隨身^{*7}にうたはせたまふ。

行くかたも忘るるばかり朝ぼらけ^cひきとどむめる琴の声かな

とうたはせて、まことにしばし、内より人やと、心ときめきたまへど、さもあらぬは口惜しくて、歩み過ぎたれば、いと好ましげなる童^{*10}べ四五人ばかり走りちがひ、小舎人童、男など、をかしげなる小破子^{*11}やうの物をささげ、をかしき文、袖の上にうちをきて、出で入る家あり。なにわざするならむとゆかしくて、人目見はかりて、やをらはひ入りて、いみじくしげきすきの中に立てるに、八九ばかりになる女子の、いとをかしげなる、薄色^{*12}の袷、紅梅などしだれ着たる、小さき貝を瑠璃^{*13}の壺^{*14}に入れて、あなたより走るさまのあわたしげなるを、をかしと見たまふに、直衣^{なをし}の袖を見て、「ここに人こそあれ」と、なに心もなく言ふに、わびしくなりて、

「あなかまよ。聞こゆべき事ありて、いとしのびて参りきたる人ぞ」と「寄りたまへ」と言へば、

「あすの事思ひはべるに、いまより暇^{*15}なくて、そそきはむべるを」とさへづりかけて、往ぬべく見ゆめり。

（『堤中納言物語』「貝合」による）

《注》

- | | | |
|---------------------------------|--------------------------------------|------------------------------|
| *1 指貫 ^{さしぬき} ……昔の人のほかま | *2 つきづきしく……忍び歩きにふさわしく | *3 具して……連れて |
| *4 ひまなげなる……霧の切れ目がない | *5 あきたらむもがな……門があいているようなところがあればなあ | |
| *6 築地……家の周りの堀 ^{ほり} | *7 またき……完全で崩れがない | *8 わりなく……無性に |
| *10 口惜しくて……残念で | *11 小破子 ^{こわりこ} ……中に仕切りのある食器 | *12 袷 ^{あこめ} ……女性の衣服 |
| *13 わびしくなりて……困ってしまったて | *14 あなかまよ……ああやかましいよ | *15 そそきはむべる……落ち着かないのです |
| *16 さへづりかけて……早口でまくし立てて | | |

問一 傍線部 a 「長月」は現代の何月のことですか。漢数字で答えなさい。

問二 傍線部 b 「弾きぬたるならむ」、g 「をかしと見たまふ」を現代仮名づかいに直し、すべて平仮名で答えなさい。

問三 傍線部 c 「朝ぼらけ」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「朝ぼらけ」とは一日の時間帯でいうとどの時間帯をさしますか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 夜ふけ イ 夕方 ウ 夜明け エ 午前中

(2) 同じ時間帯の様子をさす語を本文中より二字で抜き出しなさい。

問四 傍線部 d 「心ときめきしたまへど」は「胸がわくわくした」という意味ですが、主人公はどんなことを期待していましたか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 目の前の家からはっきりと聞こえた琴の音を演奏している人に、外でも演奏してほしいと期待して待っていた。

イ 随身に歌を歌わせたので、その歌に感動した人に目の前の家から出てきてほしいと期待して待っていた。

ウ 目の前の家からかすかに聞こえた琴の音を演奏している人に、外に出てきてほしいと期待して待っていた。

エ 随身に歌わせた歌に怒りを感じ、それを伝えるために家の中から人が出てくることを期待して待っていた。

問五 傍線部 e 「いと」、f 「をかしき」の意味として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

e 「いと」 …… ア 少し イ たいそう ウ すぐに エ ほとんど

f 「をかしき」 …… ア 趣がある イ 退屈な ウ 恐ろしい エ つまらない

問六 次の意味を表す語句を本文中よりそれぞれ指定の字数で抜き出しなさい。

① 人目のないすきを狙って（七字）

② こっそりやってきた（九字）

国語解答欄

四		三				二			一		
問 四	問 一	問 六	問 五	問 三	問 一	問 六	問 二	問 一	問 二	問 一	
	月		II		①		I	①	①	①	
問 五	問 二										
e	b	問 七			②		II	②	②	②	
f			こと			ゝ					
			問 四								
問 六		問 八			③		III	③	③	③	
①											
	g				④		問 三	④	④	④	
			問 五				A				
			I								
		問 九			(め)	から		(り)	⑤	⑤	
						問 七					
						C					
②		問 十			④		B	④	⑤	⑤	
	問 三				(け)	D	問 四				
				問 二							
	(1)	問十一				問 八					
	(2)						問 五				

配点

各2点×

50

受験番号

得点

国語解答欄

四		三					二			一													
問 四	問 一	問 六	問 五	問 三		問 一	問 六	問 二	問 一	問 二	問 一												
ウ	九 月	エ	II	見	今(例)	①	自	I	①	①	①												
			ア	つ	朝	しあん	尊	エ	確 認	合	オ												
			メ	け	登		感																
問 五	問 二	リ	た	校	情																		
e イ	b ひきいたるならん	問 七	カ		す	②	ゝ	II	ア	②	②												
f ア		ア	は	こ	こ	と	証 拠	の	III イ	いしゆく	由	ア											
			ん	問 四	、	机	で	は			③	③											
問 六			①	人	目	見	は	か			り	て	②	し	の	び	て	参	り	き	た	る	
①	人	目	見	は	か	り	て	②	し	の	び	て	参	り	き	た	る						
②	し	の	び	て	参	り	き	た	る	②	し	の	び	て	参	り	き	た	る				
③	人	目	見	は	か	り	て	③	い	から	問 七	C	客	観	D	基	準	問 八	ア				
④	人	目	見	は	か	り	て	④	仰 向	(け)	問 二	エ											
⑤	人	目	見	は	か	り	て	⑤	なぐさ	(め)	④	仰 向	(け)	問 二	エ								
⑥	人	目	見	は	か	り	て	⑥	白 墨	で	ス	パ	イ	と	書	か	れ	て	い	る	の	と	き
⑦	人	目	見	は	か	り	て	⑦	年 生	に	な	っ	た	ば	っ	か	り	の	と	き			
⑧	人	目	見	は	か	り	て	⑧	三 年	生	に	な	っ	た	ば	っ	か	り	の	と	き		
⑨	人	目	見	は	か	り	て	⑨	建 物	が	建	つ	て	る	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や
⑩	人	目	見	は	か	り	て	⑩	戦 争	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や				
⑪	人	目	見	は	か	り	て	⑪	ウ	ウ	問 九	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
⑫	人	目	見	は	か	り	て	⑫	ウ	ウ	問 十	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
⑬	人	目	見	は	か	り	て	⑬	ウ	ウ	問 十一	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
⑭	人	目	見	は	か	り	て	⑭	ウ	ウ	問 十二	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
⑮	人	目	見	は	か	り	て	⑮	ウ	ウ	問 十三	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
⑯	人	目	見	は	か	り	て	⑯	ウ	ウ	問 十四	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
⑰	人	目	見	は	か	り	て	⑰	ウ	ウ	問 十五	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
⑱	人	目	見	は	か	り	て	⑱	ウ	ウ	問 十六	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
⑲	人	目	見	は	か	り	て	⑲	ウ	ウ	問 十七	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
⑳	人	目	見	は	か	り	て	⑳	ウ	ウ	問 十八	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㉑	人	目	見	は	か	り	て	㉑	ウ	ウ	問 十九	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㉒	人	目	見	は	か	り	て	㉒	ウ	ウ	問 二十	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㉓	人	目	見	は	か	り	て	㉓	ウ	ウ	問 二十一	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㉔	人	目	見	は	か	り	て	㉔	ウ	ウ	問 二十二	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㉕	人	目	見	は	か	り	て	㉕	ウ	ウ	問 二十三	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㉖	人	目	見	は	か	り	て	㉖	ウ	ウ	問 二十四	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㉗	人	目	見	は	か	り	て	㉗	ウ	ウ	問 二十五	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㉘	人	目	見	は	か	り	て	㉘	ウ	ウ	問 二十六	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㉙	人	目	見	は	か	り	て	㉙	ウ	ウ	問 二十七	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㉚	人	目	見	は	か	り	て	㉚	ウ	ウ	問 二十八	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㉛	人	目	見	は	か	り	て	㉛	ウ	ウ	問 二十九	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㉜	人	目	見	は	か	り	て	㉜	ウ	ウ	問 三十	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㉝	人	目	見	は	か	り	て	㉝	ウ	ウ	問 三十一	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㉞	人	目	見	は	か	り	て	㉞	ウ	ウ	問 三十二	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㉟	人	目	見	は	か	り	て	㉟	ウ	ウ	問 三十三	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊱	人	目	見	は	か	り	て	㊱	ウ	ウ	問 三十四	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊲	人	目	見	は	か	り	て	㊲	ウ	ウ	問 三十五	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊳	人	目	見	は	か	り	て	㊳	ウ	ウ	問 三十六	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊴	人	目	見	は	か	り	て	㊴	ウ	ウ	問 三十七	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊵	人	目	見	は	か	り	て	㊵	ウ	ウ	問 三十八	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊶	人	目	見	は	か	り	て	㊶	ウ	ウ	問 三十九	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊷	人	目	見	は	か	り	て	㊷	ウ	ウ	問 四十	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊸	人	目	見	は	か	り	て	㊸	ウ	ウ	問 四十一	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊹	人	目	見	は	か	り	て	㊹	ウ	ウ	問 四十二	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊺	人	目	見	は	か	り	て	㊺	ウ	ウ	問 四十三	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊻	人	目	見	は	か	り	て	㊻	ウ	ウ	問 四十四	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊼	人	目	見	は	か	り	て	㊼	ウ	ウ	問 四十五	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊽	人	目	見	は	か	り	て	㊽	ウ	ウ	問 四十六	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊾	人	目	見	は	か	り	て	㊾	ウ	ウ	問 四十七	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ	問 四十八	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ	問 四十九	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ	問 五十	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ	問 五十一	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ	問 五十二	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ	問 五十三	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ	問 五十四	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ	問 五十五	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ	問 五十六	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ	問 五十七	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ	問 五十八	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ	問 五十九	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ	問 六十	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ	問 六十一	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ	問 六十二	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ	問 六十三	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ	問 六十四	戦	争	し	、	ス	ゴ	イ	国	な	ん	や	
㊿	人	目	見	は	か	り	て	㊿	ウ	ウ													